

請 願 文 書 表

受 理 番 号	請 願 第 1 0 号
件 名	紙おむつの支給について
紹 介 議 員	五十嵐完二
要 旨	<p>私は、もうすぐ82歳です。この頃の年代の人たちは、戦前の「欲しがりません勝つまでは」の食べる物のない、食いたい盛り、育ち盛りに食べ物がない。その後、敗戦。またまた食糧難。苦労の連続。成人になれば戦後復興で、働け、働けで稼ぎ、韓国への賠償金も払い（5億ドル、360円のレート）、今日の日本国をつくった年代の人たちだと思います。</p> <p>それが、今、高齢者になり、福祉で紙おむつの支給を受けさせていたただこうかと思ったら、福祉切捨てで廃止となつては、少ない年金生活では維持ができません。せめて、国が定めた日本国民としての最低限の生活ができるように、紙おむつの支給を求めお願いいたします。</p>
付 託 年月日 委員会	令和3年2月18日 市民厚生常任委員会
受 理	令和3年2月1日 第511号